

「事業名:福島社会イノベーション創造事業」 2021年度補助事業の実績・成果

早稲田大学 連携市町村:福島県双葉郡広野町

連携市町村との協定締結日:2019年1月18日

現地拠点:福島県双葉郡広野町下北迫大谷地原65-3 ニツ沼総合公園管理棟)

事業のポイント

- ・「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ(SI構想)」の具体化を通じて、「復興と廃炉の両立」が可能な地域社会の将来像の構築
- ・原子力災害からの創造的復興を通じた持続可能な社会を形成する社会イノベーションの創造と災害文化形成モデルの研究開発
- ・原発事故と原子力災害の教訓を活かした学術文化の新しい「知の拠点」のあり方の研究
- ・一貫した“ふるさと創造”への思いを持続的に学びに活かすプラットフォームの構築と「社会イノベーション」の人材育成

今年度の活動実績

【多世代・多地域・多分野の「対話の場」・「学びの場」の形成によるSI構想の社会実装と地域還元】

- ◆ **1F廃炉の先研究会**:「社会のなかの廃炉」というアプローチによる「対話の場」の形成し、1F廃炉プロセスを技術的・社会的観点から総合的に検討
- ◆ **A&S研究会**:浜通り地域社会の方々や国や福島県などの関係者との「対話の場」を形成し、地域社会と国際教育研究拠点との協働のあり方を議論
- ◆ **創造的復興研究会**:災害や事故からの復興過程から、新たな社会再生の物語を紡ぎだし、地域資源を有効活用したビジネス・クラスター形成に関する議論(1F世界遺産登録、スモールビジネス・クラスター創造)
- ◆ **福島浜通り復興研究ワークショップ**:福島復興の現状を視察し、地域社会の人々と対話を行い、震災や事故をいかに「自分ごと」ととらえることができるかに関するワークショップ実施
- ◆ **ふくしま学(楽)会**:原子力災害からの創造的復興の最大の課題である「復興と廃炉の両立」を考える、地域社会との総合的な「対話の場」の形成



地域の中高校生と大学生の対話@ふたば未来学園



大熊町の餅つき大会に参加した大学生

今年度の成果

- ◆ 対話を通じた新しい関係の創出、教訓の言語化を試行、人材育成カリキュラムの構築
- ◆ 多様な専門家(行政も含め)と多様な市民(住民)による「対話の場」の構築(専門知と地域知の出会いを創出)※西日本の人、東京電力、原子力規制庁、マスコミの正式参加
- ◆ 地域の多様な主体の共創「学びの場」構築・学生が福島を「学びの場」とするカリキュラム構築
→**福島**の教訓を踏まえて、**継続的に福島**の課題を「自分ごと」ととらえる人材育成



第9回ふくしま学(楽)会